

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フレンズポートふなおか		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 13日		～ 令和8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 12人
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 2日		～ 令和8年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	その日その日のお子様の様々な要望や様子に対するの対応力がある。(自然環境豊かな地域に位置しており屋外活動などにおいても選択肢が多いなど)	全スタッフ同士の連携によりお子様の突発的な興味・関心への自発行動に合わせて柔軟に対応している。	お子様の興味・関心からの行動については安全を担保しながら可能な限り見守り、お子様のモチベーションを阻害せず、もちまへの対応力に対応していることを意識的にこなす。それによりお子様は自立心が養われ、成功体験を積み重ね、自己実現の方法を学び獲得することで、自発的に自立して様々なことに自らが挑戦しスキルアップしていく姿勢が身に着くと考える。
2	事業所の所在地が五泉特別支援学校の敷地に隣接しており、往來の便が良く学校とのやりとり・協力体制が相互に取りやすい。	学校との児童の情報共有は常に行うことができている。学校のオープンスクール等にも参加させていただき、事業所外での様子などをうかがう機会があり、支援の参考にしている。	今後も関係機関として情報共有を密にしていき、児童それぞれについてのより良い支援に繋げていく。
3	他の事業としては日中一時支援事業を行っており、五泉特別支援学校の登校日には7:30～9:00の時間帯で登校支援を実施している。	登校のための送迎を当事業所が代行する事で、保護者・ご家族・就労先への影響(出勤時間)なく就労を継続していただけるよう、対応できる限りの児童を受け入れている。	安全に学校まで送り届けることを今後も意識して実施していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	近隣に公園・お店・などお子様の興味がある場所が少なく、あっても距離が遠い(キロメートル単位)またバスや電車などの公共交通機関が整備されていない地域であるので交通に不便である。	もともと住宅地から離れている現在地に建築されたことで、利用するお子様のスキルアップとともにさまざまなニーズが徐々に始まってきた。	目的地までの距離を利点と考え、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、実際に使用可能な交通機関(地域のコミュニティバスやタクシー等)の利用などで目的地までの距離を負担に感じない方法を学び、お子様が現実的に使える手段(電話予約・清算の方法等)と経験の獲得に繋げていく。
2	部屋数が3部屋(ホール1・相談室・事務所)と少ないので個別対応が難しくなることがある。(音や振動を遮断するように空間が分けられない)	10人定員の基準は満たす事業所建物であるが、お子様それぞれの成長と共に過ごし方、快適に思われる場所への選択に変化が出てきており、スペースはより大きいほうが良く、居室数もより多くあったほうが良いと客観的な視点で感じるようになってきている。またお子様それぞれの活動効果も高くなるという一面もある。	部屋数を増やすことは現実的に難しいため、パーティションやカーテン等を使用して空間を分けられるように工夫していく。また一時の活動の場として同じ組合が運営している隣接施設の空きスペースを活用したり、屋外(グラウンドや地域の公共の場)も支援活動の場として活用していく。
3	日中一時支援(日曜・祝日)の実施については、対応した人員は平日に休む必要があり、一方の放デイ事業の平日の人員配置に影響が出てしまうという一面がある。	日曜・祝日に日中一時支援の需要があること。地域において日曜・祝日の日中一時支援事業を提供している施設、またはそれに変わる社会資源がなく利用側にとっての選択肢が当事業所に限られている。	日中一時支援(日曜・祝日)については他の福祉サービスで対応できない「サービスとサービスの繋ぎ」の部分の担っている貴重な地域資源と考えている。今後もこの「繋ぎの切り札」を地域が失わないように当事業所ができる部分とできない部分を見極めながら、いざというときにサービス提供していけるよう努めていく。